

札幌市営企業調査審議会 (令和4年度第2回病院部会)

日 時 2023年1月17日(火) 午後6時～7時22分

場 所 市立札幌病院 2階 講堂

出席者 委 員 11名

上原委員、臼井委員、大橋委員、岡田委員、加藤委員
金子委員、紺野委員、竹之内委員、田中委員、
野中委員(部会長)、星原委員

市 側

西川病院事業管理者、高棹経営管理室長、三澤副院長、
中村副院長、勝見副院長、今泉理事、寺江理事、田中理事、
永坂理事、日高経営管理部長、
小山リハビリテーション担当部長、相澤放射線部長、
工藤検査部長、後藤薬剤部長、千葉看護部長、
矢田医療品質総合管理部長、米森総務課長、鈴木医事課長、
山形経営企画課長、矢挽施設管理担当課長

1 開 会

○山形経営企画課長 本日は、お足元の悪い中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、ただいまから札幌市営企業調査審議会令和4年度第2回病院部会を開会いたします。

私は、病院部会の事務局を担当しております経営企画課長の山形と申します。

今年度は、2年に一度の委員の改選期になっておりますので、新たな部会長が選出されるまでの間、本日の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

まず、本日の出欠状況と会議資料について確認させていただきます。

本日、竹之内委員より遅参の連絡がございましたので、現在、参加委員は10名となっております。

次に、資料の確認ですが、本日、机上に座席表と参考資料1、参考資料2をお配りしております。会議資料につきましては、事前に郵送させていただきました次第と資料1から資料3－2まで、全5部となります。

また、本日の議題では直接説明することはございませんが、今期から病院部会に入られた委員の方々には、郵送の際に市立札幌病院中期経営計画を同封させていただきました。

本日の資料に不足などはございませんでしょうか。

なお、本日配付の参考資料1に関しまして、中期経営計画冊子中の用語集をご用意しておりますので、本日の説明等で分かりにくい用語などがございましたら、適時、ご確認いただけるようお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、病院事業管理者の西川より、一言、ご挨拶申し上げます。

○西川病院事業管理者 病院事業管理者の西川でございます。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、本日の病院部会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今期の病院部会は、前期から引き続き所属いただいている方が5名、

新たに6名、合わせて11名の委員で構成されることになりました。

本日の部会におきましては、令和3年度決算の概要、市立札幌病院中期経営計画の進捗状況を議題にさせていただいております。委員の皆様におかれましては、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただければと思います。

簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○山形経営企画課長 先ほど申し上げましたが、今年度は2年に一度の委員の改選期となっております。本日、ご出席の皆様におかれましては、引続き委員をお願いしている方、新たに委員になられた方がいらっしゃいます。

議題に入る前に、改めて、お手元の資料1の委員名簿の順に委員の皆様をご紹介申し上げます。

初めに、上原委員でございます。

臼井委員でございます。

大橋委員でございます。

岡田委員でございます。

加藤委員でございます。

金子委員でございます。

紺野委員でございます。

竹之内委員でございます。

田中委員でございます。

野中委員でございます。

星原委員でございます。

続きまして、病院局の出席者をご紹介申し上げます。

時間の関係上、局長職と部長職のみとさせていただきます。

経営管理室長の高棹でございます。

副院長の三澤でございます。

同じく、副院長の中村でございます。

同じく、副院長の勝見でございます。

理事の今泉でございます。

同じく、理事の寺江でございます。
同じく、理事の田中でございます。
同じく、理事の永坂でございます。
経営管理部長の日高でございます。
リハビリテーション担当部長の小山でございます。
放射線部長の相澤でございます。
検査部長の工藤でございます。
看護部長の千葉でございます。
医療品質総合管理部長の矢田でございます。
薬剤部長の後藤でございます。
以上でございます。

2 議 事

○山形経営企画課長 それでは、議題1、部会長及び部会長代理の選出に移らせていただきます。

札幌市営企業調査審議会条例の第6条第3項において、「部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選によってこれを定める」となっております。

また、慣例により、部会長代理も置いているところであります。

それでは、部会長、部会長代理の選出につきまして、どなたか、ご意見はございませんでしょうか。

○紺野委員 事務局案をお示ししていただければと思います。

○山形経営企画課長 ただいま、紺野委員から事務局案の提示ということがございました。

皆様、いかがでございましょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○山形経営企画課長 ありがとうございます。

それでは、事務局の案を提示させていただきます。

部会長には、札幌市医師会副会長であり、札幌市の地域医療に精通されている野中委員に、部会長代理につきましては、北海道医療新聞社編集部次長であり、国や北海道の医療政策の動向などに精通されて

いる加藤委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり・拍手)

○山形経営企画課長 ありがとうございます。

ご異議がございませんでしたので、野中委員に部会長を、加藤委員に部会長代理をお願いしたいと存じます。

それでは、お二人におかれましては、部会長席、部会長代理席にお移りいただきまして、それぞれ、一言、ご挨拶をお願いいたします。

また、野中部会長におかれましては、その後の議事運営につきまして、よろしくをお願いいたします。

[部会長、部会長代理は所定の席に着く]

○野中部会長 改めまして、札幌市医師会副会長の野中でございます。

ただいま部会長を拝命いたしました。身の引き締まる思いでございます。

この会で皆様方のご意見を出していただいて、市立札幌病院の運営にぜひとも生かしていただければと思いますので、ご協力のほどをよろしくをお願いいたします。

○加藤部会長代理 部会長代理を拝命いたしました加藤です。

この場にはいろいろな方がいらっしゃいますので、本当に皆さんのいろいろな立場から忌憚なく意見を言っていただいて、いい経営に結びつけていけたらな、お役に立てたらなと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○野中部会長 それでは、私のほうでこの後の会を進めさせていただきたいと思います。

まず、議題(2)と(3)がございしますが、一括して説明を受け、その後、質疑応答の時間をつくりたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○野中部会長 では、そのような形で病院局から説明をお願いいたします。

○日高経営管理部長 それでは、私からお手元の資料に基づきましてご説明させていただきます。

長くなるかもしれませんが、ご容赦いただければと思います。

まず、議題（２）令和３年度病院事業会計決算の概要についてでございます。

お手元のA４判横の資料２をご覧ください。

資料２の１ページ目、１、令和３年度決算の概要の（１）各指標の推移をご覧ください。

令和３年度の入院患者数につきましては、左上のグラフのとおり、年間14万252人となっております、前年度と比べまして年間393人増えておりますが、ほぼ横ばいと考えております。

その右隣にございますグラフは、病床利用率の推移でございます。病床利用率とはベッドの利用頻度でございますが、一番右側の数字が57.2%となっております、前年度よりも0.2ポイント増えております。

次に、外来患者数についてでございます。こちらは、左下のグラフでございますが、年間24万3,282人となっております、前年度と比べて年間1万366人の減となっております。

実は、令和２年度に引き続きまして、新型コロナウイルス感染症患者受入れのために一般病床を若干縮小したことがございます。時期によりましては、一般病床、新型コロナ以外の病床自体が最小283床まで減ったことがございました。特に令和３年３月29日から６月９日ぐらいまで非常に多かったのですけれども、この時期には、急がない手術を延期させていただいたり、新規患者の受入れの一時中止などを行ったところでございます。

続きまして、右下に経常収支と当該年度末資金残というグラフがございます。

資金残については、後ほど改めてご説明させていただきたいと思っておりますけれども、折れ線グラフのところでございますが、令和３年度の経常収支、医業収支と医業外収支を合算したものは約21億円の黒字となっております。その上の資金残は、約52億円あるという計算になりました。

実は、これは、下の四角に書いてありますが、感染症病床確保促進事業費補助金が出ておりまして、令和２年度については66億2,000万円、

3年度については55億7,000万円という巨額の国費が入ってきております。もしこちらのお金がなかったら、令和3年度につきましては、約35億円の赤字になっておりますし、資金残についても約70億円の資金不足と非常に厳しい状況でございました。

新型コロナの補助金につきましては、最後にお話をさせていただければと存じます。

おめくりいただきまして、2ページ目でございます。

(2) 収益的収支と書いておりまして、経営に伴いまして生じた収益、それに対する費用でございますが、令和2年度決算との比較を掲載しております。

まず、収入面でございます。

項目欄の一番上に診療収益とございますが、入院・外来患者については、患者1人当たりの1日平均の収入である単価が上がったことに伴いまして診療収益が増加する一方、上から3番目のコロナ関連補助金・負担金欄にある感染症病床確保促進事業費補助金などが令和2年度に比べて若干減少したこともございまして、ちょうど真ん中の網かけ欄の経常収入計は令和2年度に比べまして約6億3,000万円の減収となっております。

また、その下の支出の部分でございます。

経常収入計欄の下に給与費がございまして、実は、看護師の定数増により職員数が増えたこともございまして給料や時間外勤務手当が増えております。それから、高額な薬品の使用量が増えております。そして、ちょうどこの年の最初は物資が不足していたためにニトリルグローブなどの医療材料の単価がかなり上がった時期でございまして、結果的に経常支出は前年度よりも2億8,000万円ほど増えたところでございます。

その結果、一番下の欄の経常収支差引でございますが、令和2年度から9.1億円減少の20億7,000万円の黒字という状況になっております。

おめくりいただきまして、3ページ目の(3) 資本的収支でございます。

ここは、病院の建物や医療機器などを整備する費用、そして、その

財源、つまりどういうところからお金を持ってくるかという部分でございます。

まず、表の下の資本的支出の関連をご覧いただきたいと思います。

建設改良費というのは、固定資産の取得、建物や機械を取得したり、価値の増加のために修理したりすることを含めたものでございますが、その中で医療機器の購入費が12億6,000万円から8億1,000万円に4億円ほど減っております。その一方で、平成29年度末に札幌市の一般会計から27億円ほど借り入れておりまして、こちらを2億円返済させていただいた部分が支出増となったことなどにより、結果として前年度からは1億8,000万円の減となったところでございます。

次に、表の上の部分ですが、今の支出を補うためにどういう収入を入れたかということでございます。一番上の企業債、そして、上から4番目のコロナ関連補助金・負担金、これは、医療機器等を買わせていただくものがございましたので、こちらの収入でございます。これらの合計が29億2,000万円ございまして、前年度より3億8,000億円の減となっているところでございます。

この結果、一番下の資本的収支差引という網かけの欄ですが、令和3年度につきましては10億8,000万円の収支不足となったところでございます。この収支の不足部分については、預金など自主財源で補ったところでございます。

おめくりいただきまして、4ページ目、2-1業務量でございます。

1ページ目のグラフでご説明させていただきました病床利用率などの指標のほか、1日平均の患者数や外来の延べ患者数を私どもは業務量という言葉でお示しをしているところでございます。

おめくりいただきまして、5ページ目は、今ご説明した業務量のうち、入院した患者さんにつきまして、当院の運営に大きな影響を及ぼしております新型コロナウイルス感染症患者の分と、それ以外の一般分に分けて参考に添付させていただいております。

当院の許可病床数は672床でございますが、新型コロナウイルス感染症患者受入れ病床は、表の下側のコロナ分というところにありますけれども、令和3年度につきましては年平均で59床、一番下の受入れの

ために非稼働とした病床数は134床ございました。表の上側でございますが、それを除いて算出しました一般分の病床数は479床ございまして、一般分の病床利用率は74.2%となっているところでございます。新型コロナ以外の一般の患者数を見ますと、令和2年度と比較してあまり大きな変化はなく、新型コロナウイルス感染症による様々な制約の中にあっても、それ以外の一般診療にも注力してきたところでございます。

実は、令和4年1月、ちょうど1年ぐらい前ですが、この頃は新型コロナが意外と落ち着いていて、この時期に急回復して、入院患者もかなり増えた時期でございました。しかし、もう既に公表させていただいたとおり、1月29日から院内クラスターが発生しまして、結局、1月29日から2月10日は、患者の皆様が67名、職員の皆様28名、合計95名の感染が院内で発生いたしまして、ここからまた入院収益等が落ちていった状況でございます。

おめくりいただき、6ページ目でございます。

こちらは、これまで概要を簡単にお話しさせていただきました収入と支出を示した総括表になります。

各項目の詳細な数字は後でご確認いただければと存じますが、ここでは、先ほど申しました資金の状況をご説明させていただきたいと思っております。

表の一番右側の収支差引でございますが、その真ん中に令和3年度決算ということで網かけ部分がございます。

まず、網かけ部分の一番上の数字の収益的収支の計は、先ほどの経常収支ですが、20億6,500万円の黒字となりました。その下の欄の資本的収支計は、先ほどお話しさせていただいたとおり、10億8,200万円の収支不足です。これに、損益勘定留保資金と言いまして現金等を伴わない収益と費用、減価償却費などですが、こちらの9億3,200万円を加えました結果、令和3年度は単年度で19億1,542万2,000円の資金残高が生じたところでございます。これに、過年度内部留保資金という前年度までの資金残、令和2年度決算の下から三つ目にある7億6,622万2,000円を令和3年度に加えますと、令和3年度末の資金残が26億8,164

万4,000円となります。これに、先ほど申しました一般会計からの長期借入金25億円を含めると、1ページ目でご説明させていただきましたとおり、一番下の欄でございますが、51億8,164万4,000円という資金が残った形になります。

議題（2）の説明は以上でございます。

ここで、先ほどもお話しさせていただきましたとおり、新型コロナの病床確保補助金に関連したお話をさせていただきたいと存じます。

実は、1月13日に会計検査院が検査報告を出しておりまして、翌日の1月14日の各新聞にその記事が出てきているところかと存じます。たまたま私のところに新聞がありますけれども、医療のコロナ病床確保、過剰に補助金、1病院平均7億円黒字というような数字がございます。

先ほども申しましたように、私どもも新型コロナの病床確保の補助金を確保させていただいたところでございます。令和2年度で66億円、令和3年度は55億円でございます。それこそ100億円を超えるお金を頂戴いたしました。こちらにつきましては、一応、ルールどおりにやらせていただきましたが、今回の会計検査院の指摘というのは、そのルールがどうだったのだろうかという指摘でもあるのかなというふうに見えるところでございます。

実は、その会計検査院の中で、病床は確保されているけれども、断ったりしているところもあるのではないかとのご指摘もあるようでございます。この部分につきましては、私どもも、一人も断ったことがないかということ、そんなことは決してございません。やはり、重症度の高い患者の対応をしていたということもございまして、あるいは、保健所の調整が入らないで来た救急隊からの直接要請につきましても、なるべく受けるようにしておりましたけれども、やはり、想定以上にマンパワーが不足する部分が結構あったりして、夜間にそういうものがどんどん来るとなかなか入れなかったことがあったのも事実でございます。

ただ、先ほど申しましたように、今後、2類から5類の見直しなどがいろいろある中で、私どもは、やはり感染症指定医療機関としての

責任を全うしていきたいと思っておりますので、こういうふうに国費が投入されていることを肝に銘じながら、その役割を果たしていきたいと考えているところでございます。

続きまして、議題（３）の市立札幌病院中期経営計画の進捗状況をご説明させていただきたいと思いますが、その前に、当院の中期経営計画に初めて触れていただく委員の皆様もおられますので、お手元に配付しております参考資料１、中期経営計画の体系図をご覧くださいければと存じます。

私どもでは、この中期経営計画は、この前に平成27年度から30年度まで新ステージアッププランというものがありまして、その後継の計画として策定いたしました。平成31年、令和元年度からの6年間の計画でございますが、ちょうどこの計画を立てる前は私どもの経営がかなり厳しい状況に陥っていたことも事実でございますので、それらを見据えながら対応を考慮したものでございます。

中期経営計画におきましては、この表の一番上でございますとおり、「市民のため、『最後のとりで』として、地域の医療機関を支える」という市立札幌病院の使命を明確化するとともに、その使命を果たすために当院が具体的に担うべき四つの役割を整理させていただきました。

これが、資料の左側のとおり、①高度急性期病院として地域の医療機関を支える、②地域医療支援病院として地域の医療機関を支える、③北海道・札幌市の将来の医療を担う人材を育成する、④良質で安心できる医療・サービスを安定的に提供するという四つでございます。

そして、この役割を果たしていくために六つの基本目標を掲げたのが右側でございます。こちらを実践していくために数値目標等を設定させていただきました。目標数値の設定につきましては、直接担当している各部署が、今後の当院の役割や今後の経営状況、どこまで伸ばしていけるかなど、いろいろ考えながら定めたものでございます。

それでは、資料３－１にお戻りいただきたいと思えます。

資料３－１は、数値目標の各年度の実績と達成状況をまとめたものでございます。

達成状況（R3）の欄には、丸や三角などの記号がございます。これらの凡例は、紙面の下側でございますとおり、令和3年度において、目標を達成したら二重丸、丸は平成29年度実績より改善している、三角は策定したときよりも悪化している、そういった指標となっております。

また、先ほど申しましたように、病院特有の用語がたくさんございますので、参考資料1の下に用語集を添付しておりますので、そちらを参考にしつつ、一つずつお話をさせていただきます。

まず、基本目標1、市民の命を守るため、他の医療機関からの受け入れを断らない医療を実践しますでは、四つの指標を掲げました。

一番上の①救急車等搬送件数でございます。救急車につきましては、私どもは、住民の皆様のためにきちんと受けていこうということで、令和3年度の目標値は3,800件でございますが、実績は3,263件で、目標値を537件下回ったという結果でございました。

ただ、実は、ここには出ていないのですが、令和4年度は4月から12月までで3,166件ございまして、令和3年度の1年間の数字にはほぼ到達しつつありますので、令和4年度につきましてはこのまま順調に伸びていけばいいのかなと思っておりますのでございます。

②手術実施件数は、目標値7,260件に対して実績は4,959件と5,000件を割っているところございまして、これも目標値を2,300件ほど下回ったところでございます。コロナ前は年間7,000件近くの手術ができていたのですけれども、こちらは今もなかなか難しい状況になっているところでございます。

③病床利用率は、目標値87%と設定させていただいていたのですけれども、実績は57.2%と目標値を30ポイントほど大きく下回っている状況でございます。先ほどもお話ししたのですが、これは一般病棟と新型コロナの患者の皆さんの二つを含めたところございまして、トータルが57.2%ですが、一般だけに限れば74.2%という数字でございます。

④外来化学療法加算算定件数は、外来でできることは外来で行うということで、がん拠点病院として、希望するより多くの患者の皆様

対応できるようにということでこの目標を設定しました。目標値4,500件に対しまして実績は3,741件と、こちらも目標値を下回っているところでございます。

次に、基本目標2の地域の医療機関と緊密な連携体制を構築しますでございませう。

まず、⑤紹介患者数についてでございませう。私どもは地域からの紹介を受けて来ていただく方が9割近いということで、目標値が1万3,800人ですが、ちょうど平成30年度の実績が1万2,600人と1万3,000人に近かったので、こちらを目指そうとしておりました。実際、令和元年度につきましては1万3,000人を超えている状況もあったのですが、実績は8,277人と目標値を5,500人も下回っております。

ただ、これも現状をお話しさせていただきますと、令和4年度につきましては、ここには数字を書いていないのですが、4月から12月までで紹介件数は8,759人と令和3年度の実績を上回っているところでございませう。私どもの病院の生命線はやはり紹介患者でございませうので、今後もこちらを着実に伸ばしていきたいと思っております。

⑥長期処方患者率と⑦PET-CT稼働件数も目標値を下回ったところでございませう。長期処方患者率は、1か月以上、31日以上薬を処方している方ですが、こういう方につきましては、基本的には安定しているところでございませうので、地域の医療機関の皆様にもまたお預けをして、病状が悪化等をすればまた私どものところに来てもらうという目標を立てたところでございませうが、これが下回っております。

また、PET-CTというのは、検査用の放射性薬剤を体内に静脈注射し、カメラで撮影して病気のところを着色することで全身のがんを診ることができる機械でございませう。こういう機械もございませうので、地域の医療機関の皆さんとの共同利用も考えたところでございませうが、こちらも目標値を下回っている状況でございませう。

次に、基本目標3、医療を担う人材を育成するとともに、先進医療に貢献しますに対しては三つの指標を掲げました。

⑧初期研修医は、1年目、2年目の研修医でございませうが、これは

3年連続で目標を達成しております。

ただ、⑨専攻医（後期研修医）という3年目から5年目の方は目標に至っていないところもございますので、今後とも大学との連携などにより受入れ人数の増加に努めてまいりたいと考えております。

⑩夜間看護補助員につきましては、令和元年8月以降は全病棟に配置しておりますが、慢性的な不足が課題としてございまして、現在も合計19名で回している状況でございます。加算取得に必要な人数は上回っておりますけれども、やはり夜間看護の補助員は募集に難儀しているところもございます。

おめくりいただき、基本目標4、医療の質を常に向上させますという目標でございます。

⑪DPC特定病院群の指定でございますが、これを一言で説明するのは私も苦手なのですけれども、いわゆる大学病院本院並みの診療機能を有するものとして指定を維持していくことが目標となっております。一応、DPC特定病院群が維持されているところでございます。

また、⑫リハビリテーション実施単位数につきましては、特に手術等が終わった直後からリハビリをすることによりまして予後が改善されますので、この辺は力を入れていこうということでもかなりやっておりましたが、目標値を若干下回っている状況でございます。

次に、基本目標5、患者サービスを充実させ、より快適な療養環境を実現しますでございます。

⑬と⑭の患者満足度調査につきましては、従来は私ども独自の項目でやっておりました。ただ、日本医療機能評価機構という専門の評価機関がございまして、これは中立・公正な立場に立って所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価し、一定水準を満たせば認定病院に認定してくれるということで、私どもは、2003年度に新規取得して以来、現在に至っているところでございます。実は、こちらの機構が作りました患者満足度・職員やりがい度活用支援プログラムというものがございまして、令和3年度よりこれを利用しております。ここで、一旦、調査の連続性が失われましたが、私ども独自のものよりもこちらを使うことによって全国の病院と比較することができることと

なりました。また、令和2年度につきましては、コロナの関係で調査できなかったところがございますが、これについては前年度以上の実績を上げていきたいと思っておりますので、満足度の向上に向けた取組を進めてまいりたいと考えております。

最後に、基本目標6、業務の効率化を徹底し、健全な財政基盤を確保しますでございます。

⑮経常収支、⑯資金収支につきましては、先ほどからお話しさせていただいたとおり、新型コロナウイルス感染症患者の受入れで病院に対する国の交付金による減収補填等により、結果的には計画値を上回っています。

中期経営計画の進捗状況は以上でございます。基本目標1や基本目標2の各指標、基本目標4のうちリハビリテーション実施単位数など、一般診療の実績と特に関係の深い指標はいずれも計画値を下回る状況となりました。

また、お手元に別途配付しております参考資料2、市立札幌病院入院患者数と確保病床数の推移（新型コロナウイルス感染症）というものがございます。実は、私どもが一番最初に新型コロナ患者を受け入れたのは令和2年1月27日でございます。これ以降、現在に至るまで8波を経験しております。特に、令和3年度、2021年4月から6月にかけて、アルファ株、デルタ株など患者さんの重症度も非常に高く、新型コロナ患者がかなり多かったことから、それらの受入れに対応する必要があったために一般診療を制限せざるを得なかったということで、現在のような結果になっているところがございます。ただ、その後は、市内の医療機関の提供体制が整うにつれまして、当院でも可能な限り一般診療を制限しないよう対応してまいりました。しかし、結果的に年間の診療実績が大きく減少したことから、目標の達成に至らなかったところがございます。

最後に、これまでご説明してまいりました令和3年度決算と中期経営計画の指標との関連性をまとめました令和3年度決算と中期経営計画の指標との関連性というA3判横の資料をご覧ください。

まず、左上の1番目は、入院収益と外来収益をそれぞれ患者数掛け

る診療単価に分解しました。さらに、その右側には、これを、資料3-1の各指標のうち、特に関係が深い指標、例えば、一番上の入院の患者数で言いましたら①番の救急車等搬送件数、⑤番の紹介患者数などに分けて表にまとめました。

最初にお話ししましたが、令和3年度の延べ入院患者は14万252人でございまして、目標比で7万3,709人、3割以上の減少、令和2年度からは横ばいとなっております。各指標との関連では、やはり、特に紹介患者数が大きく減少しているところでございます。左側の下の表に⑤紹介患者数とございますが、令和3年度目標が1万3,800人に対して、真ん中の網かけ部分の実績は8,277人で、令和2年度の実績よりもさらに低かった状況がございまして、これは私どもにとってかなり大きな影響があったと考えております。

また、令和3年度の入院単価でございまして、入院収益という真ん中の表の上の折れ線グラフに8万7,218円という数字がございまして、これは、目標比よりも1万2,653円、前年度よりも3,191円上振れているところでございます。

この分析ですが、やはり、高度急性期治療が必要な患者の割合が相対的に増えたのではないかと、一般診療はかなり制限したのですが、これに対しまして、やはり当院でしかできないような治療が必要な方に特化したのではないかとということと、それから、注射薬等の医薬品や医療材料自体が高額になってきていたところでございます。数字は出ていませんが、注射の単価は、令和元年度は6,379円でしたが、3年度につきましては8,585円ということで、元年度に比べて34%ぐらい上昇しているような状況がございまして。また、新型コロナウイルス感染症患者が入院した場合の特例といたしまして、診療報酬の入院料や加算点数が2倍から3倍になっております。これも数字が出ていないのですが、令和3年度の決算数値で言えば、実は、新型コロナウイルス感染症の場合の入院単価は12万円ぐらいだったのです。それに対して、新型コロナ以外の場合の入院単価は8万4,000円とございまして、こういうものがありましてこのような結果になったのではないかと考えております。

次に、表の右上の3番目の外来収益についてでございます。

こちらは、外来患者数と外来単価の推移をグラフ化したものでございまして、関連する実績を下の表にまとめたものでございます。

延外来患者数は24万3,282人、目標比約5万2,000人のマイナス、前年度実績よりも1万人ほど減っております。一方、1人当たりの外来単価は2万4,211円でございます、こちらも目標比では前年度よりかなり上がっている状況でございます。

外来患者数につきましては、中期経営計画の中では段階的な減少を見込んでおります。これは、先ほど申し上げましたように、病状の安定した患者様は地域の医療機関に逆に紹介いたしまして、地域と一体となって必要な医療を提供していこうという趣旨でございます。

こちらにも、入院と同様に、新型コロナウイルス感染症患者受入れの影響を受けまして患者数は減りましたが、やはり単価は上昇しております。これも、同じく、医薬品が高かったり注射料の増などによるものと分析しているところでございます。

次に、右下の4番目の収支の状況・財務指標でございます。

下の段の表の各種財務指標の比較を見ますと、経常収支比率というのは経常の収入を経常の支出で割った比率でございますが、こちらは計画値を大きく上回りました。これがプラスということは、すなわち黒字でございます。一方、その下にございます職員給与費対医業収益比率、材料費対医業収益比率、委託費対医業収益比率は、いずれも悪化しているところでございます。

経常収益が計画値を上回りましたが、これは何度も申しますように国の交付金による減収補填でございまして、主に入院収益と外来収益から構成される医業収益は計画値を下回っている状況でございます。また、材料費対医業収益比率につきましても、高額な医薬品を使っている状況もありますので、こちらも影響も受けたと考えております。

今ご説明いたしましたことは、一番最後の表の㊸㊹㊺にまとめております。こちらのとおり、令和3年度は入院収益の目標を大きく下回ったけれども、外来収益は上回りました。入院、外来とも、患者数は計画値を下回った一方で、単価は計画値よりも上回りました。㊺とし

て、医業収益の減によりまして、医業収益に対する給与費、材料費、委託費の比率は相対的に上昇しておりますので、計画値より悪化している状況がございます。

持続可能な経営の実現には、そもそも本業である診療収益、特に入院収益の増が不可欠であると私どもは考えております。そのためには、中期経営計画の基本目標 1 や基本目標 2 に掲げている他の医療機関からの受入れ要請を断らない医療を実践するとともに、地域の医療機関との緊密な連携体制の構築が重要であります。病院が一丸となりましてこれらに取り組み、良質な医療の提供と経営の安定化の両立を図ってまいりたいと存じます。

大変長くなりましたが、議題（3）の説明は以上で終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

○野中部会長 ありがとうございました。

まずもって、このコロナ禍で、市内における市立札幌病院の医療の役割ということで、我々医療人にとりましても貴重な働きをしていただいたことに感謝を申し上げたいと思います。

ただいま、令和 3 年度の決算、そして中期経営計画の指標を出していただきまして、その結果、どのような評価をするかという説明をいただいたわけですがけれども、これに関しまして何かご質問なりご意見はございますでしょうか。

○紺野委員 資料 3 - 1、資料 3 - 2 に出てきた D P C 特定病院群ですが、この指定が維持されているということは理解できましたけれども、これが入院単価にどのように影響して、最終的に診療収益にどの程度つながっているのかを知りたいと思いました。

○日高経営管理部長 まず、D P C というのが何かということをごく簡単に申しますと、この病気に対してこの手術をしますといったときに、実は、いろいろな手術の手法や病気に対して入院する期間というのが結構定められておりまして、例えば、1 日目から 10 日目までは何千点と決まっております。実は、この D P C の係数を維持していくことによりましてその係数を掛けることができますので、その係数が下

がっていないということは、コロナ前と同じ診療収益が比較的維持されているということでございます。入院単価あるいは手術について、新型コロナウイルスの影響を一旦は置いておいて、以前と同じような水準で維持されているということでございます。

具体的に幾らの数字かにつきましては、今、手元に数字がございませんが、いずれにしましても、例えば、5,000点掛ける1.1だったものが0.9に下がったりすると、その分はちょっと下がるということでございますので、今はそういうところがないという状況で、引き続きこちらを維持していきたいと考えているところでございます。

○野中部会長 岡田委員、どうぞ。

○岡田委員 初めてですから、細かいところで分からない部分を教えていただきたいと思えます。

まず、資料3-2の一番最後で、アウトラインについて㊦㊧㊨と説明していただいたところがあると思うのですが、この㊨に「医業収益」と書かれているのですけれども、これは、資料3-2の左上にある診療収益と同じ意味ですか、それとも、何か違うのでしょうか。用語集も見てみたのですが、そこには医業収益という言葉がなかったのです。

○日高経営管理部長 大変申し訳ございません。

医業収益と診療収益は、基本的に同義だと考えていただければと思います。

○岡田委員 同義であるなら、統一してもらえたらと思います。

それから、細かいところですが、資料3-1の1ページ目の基本目標1で断らない医療と書かれてありますけれども、もし断らないということの成果を見るのであれば、例えば、①救急車等搬送件数の要請があつて何件受け入れたかとか、そういう率を見ることができないのかなと思ったのです。それはいかがでしょうか。

○日高経営管理部長 実は、断らない医療と言いつつも、やはり、同時に3人も4人もというのはなかなか難しいところがございまして、どうしても受け入れられないこともございます。そういう数値は、今、私どもでは、毎週、週ごとに集計して、それを総計して月ごと、年間

でも出しております。実際に要請がこれだけあって受け入れたのが幾らかという数値はあるのですが、今は手元にはなくて、申し訳ございません。ただ、そういうことはみんなで共有しながらやっている状況でございます。

○岡田委員 続けて、同じく資料3-1のところですが、丸や三角で達成状況が書かれていますけれども、一般的には、目標が数値化されているものであれば達成率みたいなパーセンテージで表されていることが多いような気がするのです。それをパーセンテージで出さないほうがいいという根拠が何かあるのですか。

それから、もう一つは、一番下のところに、二重丸、丸、三角というものの説明がありますけれども、この丸は平成29年度となっておりますが、計画の策定は30年度ですよ。

○日高経営管理部長 そうです。平成30年度につくったところですが、当然、その前年度の指標を使っている状況がございますので、29年度の実績も記載させていただいております。

○岡田委員 平成29年度と策定時を分けて丸や三角というふうにされているのは何か理由があるのかも教えていただければと思います。

○日高経営管理部長 丸、三角ということですが、確かに、数字で出すとより明確になったのですけれども、私どもの職員、診療科あるいは看護のほうと共有するに当たって、数値よりも記号のほうが一見してどうだったのかということが分かるのではないかとということで記号を使わせていただいたところがございます。パーセンテージが全く出ないということではありません。

○岡田委員 病院の中だけで、この記号で皆さんの情報共有ができるというのであればいいのですが、対外的に出す場合には率で出してもらえたほうが分かりやすいと思います。

それから、本日の資料は令和何年度となっている一方、中期経営計画では二千何年度というような表記になっていて、その辺が少し混乱するので、併記するなりしていただければと思います。

○日高経営管理部長 ご指摘をありがとうございます。

実は、2019年4月は平成31年ですが、でも、5月からは令和元年で

すので、この部分につきましては、やはり、表記の統一あるいは併記をさせていただければなというふうに思います。

○野中部会長 ほかにご意見はありませんか。

○上原委員 令和3年度決算と中期計画から一つずつお伺いします。

最初に、資料2の(3)資本的収支で、医療機器購入等が大幅に減っています。これは、年度によって大幅に変わるものなのでしょうか、あるいは、全体的な収支を勘案して抑えられたのでしょうか。

○日高経営管理部長 その点でございますが、実は、私どもでは、今、電子カルテを更新しているところでございますが、医療機器の購入費にはそれが入っておりますけれども、入札が不調になりまして令和3年度にはその執行ができませんでした。それが4億6,000万円ほどございまして、この影響が大きかったというのが実態でございます。

これは、私が説明するのを失念しておりました。大変失礼いたしました。

○上原委員 分かりました。

もう一つ、今度は資料3-1の基本目標5のところですか。

先ほどのご説明で、全国比較をできるようになるというお話でした。当然、向上するのが目標だということでございますけれども、全国比較をされた当院の数値の評価は何かされているのでしょうか。

○日高経営管理部長 基本目標5の患者満足度調査ですか。

○上原委員 患者満足度調査のやり方を変えて、全国比較ができるようになりました、そして、当然、毎年、向上させていくのが目標ですというご説明だったのですけれども、単年度ベースのところはどうでしょうかということですか。

○勝見副院長 ご質問をありがとうございます。

昨年度も全国比較をしまして、各項目で同じような病床数の急性期病院との比較で順位も出して、院内では共有しております。

○上原委員 全国比較で、いいほうですか、並みなのですか。

○勝見副院長 全体的には中間ぐらいという感じで、項目によっていいものもあれば少し下回るものもあるので、そこは、それぞれ課題に1年間対応してみても。今年度の結果はこれからですけれども、それで

比較をしていくというような考え方で進めております。

○上原委員 よく分かりました。

○野中部会長 ほかにいかがでしょうか。

○大橋委員 資料2の関連で、どのように考えていらっしゃるかお聞きしたいと思います。

資料2の(2)収益的収支の医業外費用で、企業債利息等ということで4億4,000万円が計上されていて、(3)資本的収支では、企業債償還金が27億1,000万円と記載されております。この数字を見ると、企業債残高というのは結構な額があるのではないかと思うのですが、まず、企業債残高を教えてくださいと思います。

それから、日銀が金融政策を転換いたしまして長期金利が上昇傾向にございますけれども、長期金利の上昇に伴って企業債の利息等々がどのような形で推移するというふうに見ていらっしゃるのか、それに伴って、今走っている経営計画の変更等を何か検討されているのかということについてご教示をいただきたいと思います。

○日高経営管理部長 企業債の残高でございますが、令和3年度末の時点で、94億2,883万2,030円という数値になっているところでございます。

ただ、金利につきましては、実は固定金利で調達しておりまして、元利均等方式で払っております。最初のうちは利息をばっと返して行って、今、元本の部分を大分返して行って、いわゆる返済額は年々一定ということでございますので、そういう部分では、今のところ、金利の上昇がこれに直接影響を与えるということはないというふうに考えております。

○高棹経営管理室長 若干補足をさせていただきます。

現在の起債残高は94億円で、この部分については影響がありません。しかし、毎年、高額医療機器などを購入するための借入をしておりますので、今後、金利の上昇がひしひしと響いてくることはあるかと思っております。ただ、現時点の起債残高については影響がないとご理解いただきたいと思います。

○大橋委員 現時点の残高は理解しますけれども、恐らく、残高があ

る程度一定で推移すると借換えでロールしていきますので、新規起債の分については金利が上がっていくということだと思います。

経営計画上はその辺を十分見られていると思いますけれども、そうしたことにご留意いただきながらということをお願いしたいと思いません。

○野中部会長 ほかにいかがでしょうか。

○金子委員 お伺いしたいことがあります。

先ほど、外来患者さんの満足度ということで、中ぐらいだろうということでした。実は、いろいろな満足度の調査がありまして、「医療維新」という雑誌に2022年度の医師の満足度調査が出ていましたが、北海道の医師の250人ぐらいのアンケートでは市立札幌病院が断トツだったということで、医師からの評判は非常にいいということをお伝えしておきます。

それから、救急患者の受入れに関しても、昨年よりちょっと多くなったということですが、救急隊のお話を伺いますと、大体、再来患者さんに関してはほとんど受け入れていただけるが、新患に関してはなかなか難しいところがあるということでした。

ただ、今まで市立札幌病院は2次救急を受け入れていなかったんですね。今回、3次、2次救急を受け入れるということで、多分、救急患者の搬送数が増えたのだらうと思うのです。だから、もしも可能であれば、また、今年度、来年度も2次救急患者の受入れをしていただくと救急搬送数が増えると思っています。

それと、細かなことですが、資料2の2枚目に発熱外来の委託費がありますが、市立札幌病院では発熱外来はされていないですよ。それで、発熱外来の委託というのはどういう意味なのでしょうか。

○日高経営管理部長 当院の発熱外来につきましては、基本的に当院に来ていただく外来の部分になります。実は、正面玄関にプレハブを建てておまして、そこで受付をする職員を委託しておまして、その委託費用というのが一つです。

それから、ワクチンのコールセンターということですが、令和3年度に私どもで地域の皆さんのワクチン接種をやったことがございまし

た。そのときに、私どもの医事課で全部対応できなかつたものですから、一時期、コールセンターとして業者の方に委託したことがございますので、その辺の費用をここに書いております。

○金子委員 そうすると、公式には発熱外来をされていらっしゃるけれども、飛び込みの場合にはそれに対応されているということではないのでしょうか。

○日高経営管理部長 一応、当院の患者さんということで、再来患者、あるいは、新規の患者で来ていただいた方につきましては受け入れている状況でございます。

○金子委員 分かりました。

それと、先ほどご説明があったと思うのですが、資料2の5枚目の非稼働病床数について、もう一度ご説明してください。百数十ベッドと数が結構多いのですよね。

○日高経営管理部長 実は、非稼働病床数はフェーズによります。例えば、フェーズ1で確保する病床数がちょっと少なかったり、あるいは、先ほどもお伝えしたように、最初の年はぐっと増えて、あのときは110床まで確保したときがありましたけれども、例えば、110床なり100床を新型コロナの専用病棟とするためには人を集めなければ駄目だということがございます。手厚い看護を行うためにはどうしても病床を減らさなければ駄目だったということで、それをフェーズごとに年平均でやったら結果的に134床ということございました。

○金子委員 分かりました。

それから、今年度は新型コロナ関連の補助金で経営状況がかなりよくなったということですがけれども、新聞などをいろいろ見ていると、多分、今年4月からは感染症分類で2類から5類に変わるのではないかとこのうわさがあります。そうすると、新型コロナ関連の補助金がかなり減少されると思うので、4月からの経営状況はかなり厳しいものになることが予想されると思います。そういうことに対する対策を何か具体的にお考えになっていると思うのですが、ほんのちょっとでいいので、教えてください。

○日高経営管理部長 これにつきましては、今、ご指摘がありました

とおり、私どもの令和2年度、3年度の経常収支の大幅な黒字というのは補助金の部分でございました。

私は先ほど令和元年度の話をさせていただいたかと思うのですが、元年度に一番最初にコロナ患者を受け入れたのが令和2年1月下旬です。実質は2か月ぐらいただったのです。その年度は約8,000万円ですけれども、本当に診療収益だけで経常収支の黒字を確保することができたところでございます。あのときの病床利用率は81.9%というすごい数字でございました。この数字は救急や精神、感染症病棟も全部含めた数字でございまして、私どもはよく一般病棟と言うのですけれども、それだけだと実は9割ぐらいい稼動していたのではないかと思います。

私どもは、これが、メルクマールというか、一つの指標になっておりまして、このためにどうすればいいかという、地域からの紹介患者を受け入れるために、幾らでも、いつでも来てくださいという状況をつくり、そのために、院長や副院長、診療科の部長などが近隣の病院を訪問して、安心して当院に来てくださいと。時期によっては、新型コロナを受け入れているので紹介するのは難しいのではないかと思ってくれた病院もあったようですけれども、制限している以外は、そんなことは全然ございませんので。今後もこういうことを地道に一つ一つ積み重ねながら着実に診療収益を上げていきたいと考えておりますので、本当に地味な話で申し訳ないですが、そんな形でやらせていただければということでございます。

○野中部会長 ほかにご意見、ご質問はございますでしょうか。

○加藤部会長代理 意見と質問がそれぞれあります。

まず、意見は、先ほど金子委員がおっしゃったように、道内の医師から選ばれる病院であるという部分と、先ほどの患者満足度も含めて、いいところはあるということですから、その辺りを札幌市民の方々にもっと知っていただく努力というか、そういうことはやっぴらっしゃるのでしょうか。コロナの厳しい状況の中でも頑張っているところはテレビなどで見ることはありますけれども、それと同時に、やはり、基本的な病院の機能としてこういうところは全国と比較しても優れて

いるのですよというところは市民と共有するといいいのではないかなと思うので、そこにちょっと力を入れてみたらいかがでしょうか。

もう一つは、質問ですけれども、資料2の入院患者や外来患者がコロナの影響によって減っているのですね。これは、もしかしたら説明があったのかもしれないのですが、コロナの影響によって受け入れられないから減ったのか、あるいは、そもそも受診行動が変わって患者さんそのものが減ったのかということでは、今後の目標を設定していく上で意味合いが違ってくるのではないかなと思うのです。

その辺りについて、現状では病院としてどういった感じで見ているのか教えていただきたいと思います。

○日高経営管理部長 患者数の減少に関して、コロナが直接影響したというのは、やはり、常に入院患者を受け入れていた病床を、新型コロナの影響により制限せざるを得なかったという時期がございました。そういう中で、私どもは何とか病床利用率を回復させたいということで頑張っておりますけれども、一旦、そうやって離れてしまった患者さんは、例えばほかの病院に流れてしまったということで、十分な回復に至っておりません。ただ、先ほど申しましたように、私どもは私どもでしかできない手術等についてはコロナ禍においてもきちんとやっております、この部分については、診療単価の増にもつながっているところではないかと思うのですけれども、やはり、一度離れてしまった患者様、あるいは、当院を紹介するのではなくて別の病院かなと考える方々をいかに取り戻していくかというところが一番大事なのではないかというふうに考えているところでございます。

○金子委員 非常に気になっていたことですが、マスコミなんかで新型コロナ感染症を取り扱う病院の職員の疲弊というのが非常に言われております。今回、職員の給与費が若干増えたということですが、新型コロナ以前と比べて職員の時間外手当がかなり増えているのでしょうか。

○日高経営管理部長 時間外手当につきましては、令和2年度と令和3年度を比較しますと、医師と看護師の年間の超過勤務、時間外勤務がちょっと多くなっているところでございます。例を出しますと、令

和2年度の看護師の平均時間数は月11.7時間、令和3年度になると13.1時間です。また、まだ数字を出していませんが、今年度、令和4年度の11月までの実績ですと16.4時間ということで、これが絶対的に多いか少ないかという議論はありますけれども、やはり増えている状況はございます。同じく、医師につきましても、令和2年度は平均時間数で35.3時間だったのが、3年度は39.9時間、4年度につきましてもは47時間となっているところでございます。

今は、新型コロナウイルス感染症の感染力が強くなっておりまして、院内クラスターだけではなく、いろいろなところで感染してしまうと何日間か休まなければならない状況にあり、それを補うためにほかの看護師なりお医者さんに来ていただいているという状況がありますので、その部分で増えてきているのかなというふうに分析しているところでございます。

○野中部会長 ほかにご意見、ご質問はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○野中部会長 大体質問や意見が出たかと思いますが、先ほども金子委員から言われたとおり、この春、3月には、新型コロナウイルス感染症は5類に変わるというような予想がされております。しかしながら、コロナは残るわけですから、医療を行う我々医療機関としては新型コロナとの闘いはまだ続くわけですよ。2類が5類に変わるからといって、あしたから急に体制が変わるわけでもないですから、今後も今の状況を継続していかなければいけないし、その中でも、ウィズコロナでどうやって医療を継続するかということを考えていかなければいけません。先ほど、今後どのように対応するのかというご質問が出ましたので、私も耳をそばだてて聞いていたのですが、やはり、今後求められるのは、通常医療に近い、でも、新型コロナがあるという状況でどう対応するのかということが非常に重要なことかなと思います。

私は、札幌市医師会で、市内の2次救急の体制改善というか、改革をしているところですけども、その中でも、やはり市立札幌病院に対する役割、期待度が非常に高くございます。ですから、今後とも市

立札幌病院には我々札幌市民の最後のとりでとして頑張っていたいただきたいなと思いますし、その経営のほうもこの会で我々が意見を述べながらサポートしていければなというふうに考えておりますので、今後とも頑張っていたきたいと思います。よろしくお願いいたします。

今日は、様々なご意見をありがとうございます。ご意見等をまとめまして、また次回の会議をさせていただきたいと思います。

3 閉 会

○野中部会長 以上で、札幌市営企業調査審議会令和4年度第2回病院部会を閉会いたします。

以 上